

平成 30 年 1 2 月 8 日 (土)

時間：午後 1 時～午後 5 時頃 (4 時間程度)

場所：都留市役所正面玄関前集合

(現地点検調査終了後 都留市消防署
2 階 会議室)

都留市景観計画

景観まちづくり市民懇談会 第 3 回プログラム

- 当日は 2 部構成で、「第 1 部フィールドワーク (見学会)」「第 2 部ワークショップ」となります
- フィールドワークは、市役所玄関前に午後 0 時 5 0 分までに集合をお願いします



1 景観まちづくりフィールドワーク —午後 1 時～午後 3 時 40 分頃を予定—

- フィールドワークは、全行程約 2 時間 40 分程度、十日市場・夏狩湧水群周辺と中心市街地・寺町周辺を車と徒歩でまわります
- 集合の際、フィールドワークルート図等を配布します
- 当日は、参加者の皆さんと地域の景観や景観づくり活動などの意見交換を予定しています
- 雨天決行します。ご不明な点や緊急連絡などは事務局までお早めにご連絡下さい
- 当日は、歩きやすい服装・靴でご参加下さい (荷物・貴重品は携行をお願いします)

2 景観まちづくり市民懇談会ワークショップ

—午後 3 時 40 分～午後 4 時 50 分頃を予定—

テーマ：「**景観まちづくりの課題を再整理し、意見書づくりのテーマを確認しよう!**」

—景観特性と課題の再整理、都留市の景観まちづくりで検討すべきテーマの確認—

○参加者任意のグループ編成で協議を進行します (第 2 回のグループを基本)

◆グループワークショップ

主な内容

- 2 つのグループに分かれ、今回実施したフィールドワークを経て、実際に目にした市内の景観の特性・課題を再確認します
- 特性・情報マップを更新します
- 併せて、「都留市の景観まちづくりで検討すべきテーマやその方向性」を共有・確認します (第 2 回ワークショップ成果の活用)
- 各グループ成果の発表と全体確認を行います



3 閉会・次回の予定など

■車の手配のため、出欠を必ず
事務局までご連絡下さい!!

都留市景観計画

景観フィールドワーク!!

▶十日市場・夏狩湧水群エリア

⑥太郎・次郎滝

・周囲の岩肌から絶え間なく湧水が流れ落ちて美しい滝

⑤長慶寺

・境内の遊水池には、清らかな流水の環境でしか育たない梅花藻が群生する

④水掛菜畑

・冬の風物詩となっている水掛菜の栽培風景

②十日市場用水路

・清らかな湧水が流れる十日市場集落内の用水路

市役所駐車場から車移動

市役所駐車場へ車移動
引き続き、中心市街地・寺町エリア
フィールドワーク

③永寿院

・「水源山」の山号を持ち、境内に豊富な湧水がある寺院

①田原の滝

・溶岩が長年にわたり浸食されて生まれた「柱状節理」と呼ばれる柱状の岩が並ぶ独特の景観がみられる

主な見学ポイント

車移動

徒歩移動

スタート(13時出発予定)
市役所駐車場

① 田原の滝
下車見学

② 十日市場用水路
徒歩見学

③ 永寿院
徒歩見学

④ 水掛菜畑
車中見学

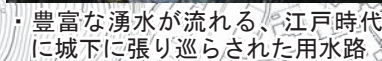
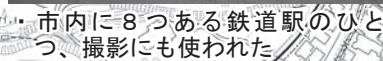
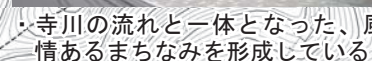
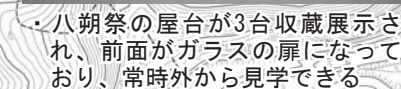
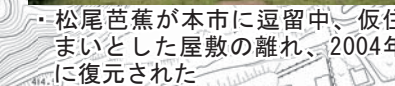
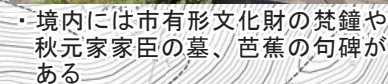
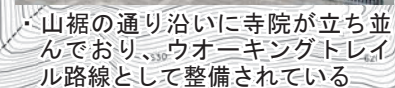
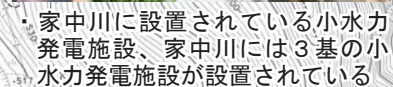
⑤ 長慶寺
車中見学

⑥ 太郎・次郎滝
下車見学

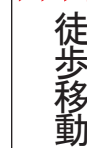
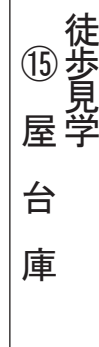
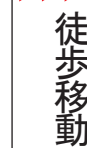
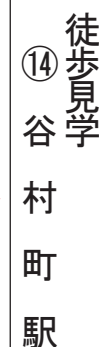
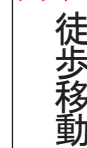
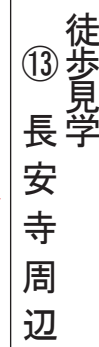
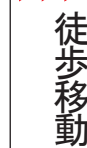
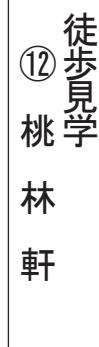
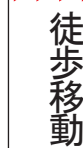
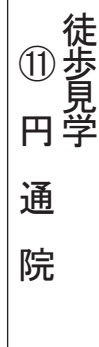
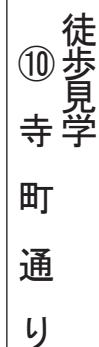
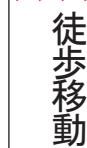
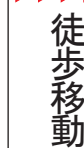
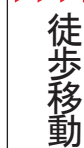
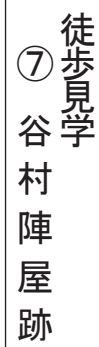
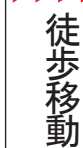
市役所駐車場へ移動後
中心市街地・寺町エリア
フィールドワーク

1. 教えたくなるような良いところや大切な資源をみつけよう
2. 問題、改善しなくてはと思うところをチェックしよう
3. 自分の目で見て、みんなで感じて、小さな発見をたくさんみつけよう
4. 会でたくさんの会話をかさねよう

▶ 中心市街地・寺町エリア



◆主なスケジュール



①田原の滝

相模川は、富士五湖の一つである山中湖に源を発し、相模湾に注ぐ延長約109kmの河川であり、山梨県では桂川と呼ばれている。桂川は都留市を縦断して流れており、深い渓谷は田原の滝や蒼竜峡などの景勝地をつくりだしている。田原の滝は、しぶきをあげて水が流れ落ちる様子から白根の滝、白滝とも呼ばれている。滝の周りには、富士山の火山活動に由来する美しい柱状節理が刻まれ、古くからその渓流美が愛でられてきた名瀑布である。江戸時代にはこの滝を見て、松尾芭蕉が俳句を詠み、藤堂良道が五言律詩を詠んでいる。このように歴史・文化的に重要な場所であることから、平成17年に都留市指定名所に指定されている。



田原の滝は、かつて上下2段の滝からなり、水量も豊富で、滝の響きが遠方まで聞こえたといわれるダイナミックな滝であった。しかし、流水の浸食を受け、溪岸の崩落が相次ぐとともに、滝も約30m後退して、周辺の民家などに被害が及ぶ恐れが生じたため、昭和33年に高さ10mの砂防堰堤が建設された。この堰堤は防災や安全確保に大きな役割を果たしたが、整備にあたっては、景観に配慮された工法が実施され、昔の美しい渓流景観が再生されている。

③永寿院



延暦19年(800年)に開創されたと言われている永寿院はその名の由来から既に湧水と縁が深く、寺記に「弥陀の霊夢に清泉の湧出るありと按に懇地西隅の岩際より麗水湧出なるに誓願し弥弥の尊体を入仏し水の源なるを以て水源山と云い、永く無量の寿水汲来ん事を祝言し寺号を永寿院と起立す」と記録されています。また、山号は「水源山」であり、境内に湧水があることに縁ります。

④水掛菜

富士山山頂から直線で約 30km。富士の山肌に注いだ雨や雪が火山灰や礫をフィルターにして、長い時間をかけて地下の水脈にたどり着きます。地下にねむるいく筋もの水脈の一部が十日市場や夏狩地区が出口となって湧き出ております。

十日市場・夏狩地区の湧水地は、富士山が噴火した際に流れ出た溶岩地帯の切れ間になっていて、その溶岩の隙間から絶え間なく、枯れる事なく富士の水が湧き出ています。

豊富な富士山の湧き水を利用して、両地区では、わさび栽培、川魚の養殖、水掛菜の栽培が行われています。

水掛菜は稲作後の水田に冬場の外気温より高い 10～12 度の富士山の湧き水を掛け流しで引き込み栽培しています。



⑤長慶寺



ここは、昔から富士の湧水がこんこんと湧き出ており、下暮地(西桂町)より薬師如来が流れ着いたという伝説があります。

この薬師如来は目に利くといわれ色薬師とも呼ばれていました。毎年 10 月 11 日の本尊薬師如来列祭でこの薬師如来を拝むことができます。

長慶寺付近の湧水地では、初夏から初秋にかけて、梅の花に似た白く可憐な梅花藻の花を見る事が出来ます。

⑥太郎・次郎滝

夏狩地区にある柄杓流川の崖にある滝です。この滝の脇からは断崖を滴り湧水が流れ出ています。壮大な風景は圧巻です。

名前の由来は定かではありませんが、都留市老人クラブ連合会編「都留の民話」の抜粋を紹介します。

昔全国を荒らした侠客の一味に、困る者を助けた太郎・次郎という凶状もちの兄弟があった。ある夜捕方に追われて上夏狩に逃げ込み、ある旧家に救いを求めた、家内の人々は驚きあわて唯うろうろするばかり、その内捕方が踏み込んで来たので太郎・次郎は奥の間から雨戸を蹴破って外に出たが、捕方の追撃は急であった、土地不安の太郎・次郎は逃げ場を失いこの滝の瀬に乗って滝壺に落ちてしまった。と云われています。



(引用：都留市役所及び都留市観光協会 HP)

⑦谷村陣屋跡（やむらじんやあと）



谷村陣屋跡は現在の裁判所の位置に存在しました。

秋元喬朝が宝永元年（1704）に川越へ転封になった後、郡内は国中地域より一足早く「天領」となり、幕府が直接支配するところとなりました。谷村には代官所が置かれていましたが、享保 9 年（1724）に甲斐国一円が天領となると、甲府勤番と三部代官の支配下に置かれることとなり、谷村は石和代官所の出張陣屋となって地方の政治をつかさどりしました。

陣屋跡は秋元氏の家老・高山源五郎家の屋敷で、総坪数 1080 坪という広い敷地を持っていました。現在の大手通りは陣屋の入口で、左右から高さ六尺（1.8m）の高い石垣があり、正面入口に陣屋入口と書いた改札があったそうです。

谷村陣屋は郡内一円の支配を行っており、陣屋の長官を「元締（もとじめ）」、その下に「公事方（くじかた：主に訴訟担当）」、「地方（じかた：主に年貢の取り立て）」、「書役（しょやく：庶務会計）」と各役職をおき、治安、税務、訴訟などの政治が行われました。陣屋は明治維新とともに、明治 5 年（1872）に谷村区裁判所として生まれ変わりました。

⑧家中川

家中川は、寛永 10 年（1633）春、秋元但馬守泰朝が上州総社（群馬県）より甲州都留郡 1 万 8 千石の谷村城主として転封となり、寛永 13 年より同 16 年まで約 3 ヶ年の歳月をかけて完成したといわれています。

桂川の水を十日市場の滝上、ネタ入山の麓から取り入れ、間もなく二流に分かれ、一流は楽山の裾を西願寺の方向に流れ寺川となり、



一流は田原の中央を柳田橋の方向に流れ、柳田橋付近にて分かれ、本流は城下町に入って家中川となり、支流は中川となって城下町の中央を流れ、共に城下町的生活用水となったほか、家中川は谷村城の堀となりました。

城の鎮守源生稻荷を過ぎて間もなく家中川から女川が分流し、女川は道生堀を経て、古川渡方面に流れ、家中川の本流は中川を横町、寺川を弁天町付近で合流して下谷、深田、四日市場方面に流れ、この間田畑を潤して菅野川と合流します。これら 4 つの川を「谷村大堰」と呼んでいます。

⑨元気くん2号

平成 16 年度、本市は市制 50 周年を迎え、これを記念して、水のまち都留市のシンボルとして、また、本市において利用可能なエネルギーの中で、最も期待される小水力発電の普及・啓発を図ることを目的に、家中川を利用し、市役所を供給先とする木製下掛け水車の小水力発電機「元気くん 1 号」を市民参加型で実施することとなりました。そして平成 17 年度に完成、



翌 18 年度から稼働を開始しました。さらに、平成 22 年度には上掛け水車の小水力発電機「元気くん 2 号」が、平成 23 年度にはらせん式水車の「元気くん 3 号」が稼働を開始しており、現在、家中川小水力市民発電所では 3 基の小水力発電機が稼働しています。

なお、ここで作られた電気は都留市役所庁舎、都留市エコハウスに供給しており、電力の一部を賄っています。

⑩寺町通り

○西涼寺（さいりょうじ）

浄土宗古今山西涼寺といい、本尊は阿弥陀如来です。

開山深誉（しんよ）上人は、江戸神田に生まれ、武家の出であったと伝えられています。芝増上寺の中興上人で、師の観智国師は徳川家康の帰依をうけ、家康の葬儀のとき引導を授けた人です。深誉上人が谷村に来たのは、



天正 10 年（1582）郡内領主小山田氏が亡んだ後、鳥居元忠が都留郡に移封になった頃で、里長であった里吉弥次右衛門を開基としてこの寺を開きました。里吉家のもと曹洞宗でありましたが、同氏が信仰していた中津森の「光り堂」の本尊阿弥陀如来を移し、深誉上人に帰依して大壇那となり、精舎を建立して古今山西龍寺と号しましたが、後に西涼寺と改めました。

寺は、正保 3 年（1646）と、元禄 8 年（1695）の下谷村大火で類焼し、そのたびに本堂、庫裡等を再建しましたが、昭和 24 の谷村大火により全焼しました。現在の建物は、3 年間の歳月をかけ昭和 47 年に復興したものです。

○専念寺

真宗大谷派向富山専念寺は、元禄 7 年（1694）下谷村の大火で全焼し、古い記録、過去帳などを焼失して、開基・開山のことなどは不明です。



元禄 11 年（1698）9 月に、江戸浅草の善照寺から僧伯という僧が入院して、本堂や講堂を再興して中興開山となっています。宝永 2 年（1705）秋元喬朝が川越へ転封のとき、菩提寺であった泰安寺の護摩堂を譲り受けて本堂となりましたが、昭和 24 年の谷村大火により、惜しくも多くの寺宝とともに一切の建

物を燃焼しました。本尊阿弥陀如来、親鸞聖人御筆像、過去帳は現存しています。現在は本堂、庫裡、鐘撞堂が再築され、また、本堂裏の園庭は、市内有数の名園です。

○東漸寺

日蓮宗大法山東漸寺は、もと真言宗に属し、開基高明院日理上人は、北条重時の嫡男で石川式部勝重と伝えられます。元徳元年（1329）富士郡大石寺 2 世、日目上人の弟子となり、日目上人を開山として山号を大法山、寺号を東漸寺となりました。日目上人は、日蓮宗六老僧白蓮阿闍梨日興上人の弟子で、駿河国富士郡安居村（現富士宮市安居山）の東漸寺と、同国神原（現蒲原郡蒲原町蒲原）の東漸寺、谷村の東漸寺の三刹を創建しました、その中で、谷村の東漸寺が最初に創立され、身延山 13 世日伝の代に身延末となりました。昭和 24 年の谷村大火により全焼し、今の本堂は昭和 57 年に再建されました。



⑪円通院

宗洞宗大慈院円通院。本尊は釈迦牟尼仏、開基は梅岩全芳（ぜんしょう）、開山は「寺記」によると、のちに本寺となる長生寺（都留市下谷）3世・一道光円とされています。

古くは観音を本尊として円通庵と号し、旧下谷村北の竹ヶ鼻（現在の都留市駅前付近）に創建されました。寛永10年（1633）、秋元泰朝が谷村城主となった頃、領主の計らいで茶園場と呼ばれている現在地へと諸堂を移し円通院と改めました。



⑫桃林軒（とうりんけん）



天和2年（1982）、江戸の大火によって住居を焼かれた松尾芭蕉は、俳諧の弟子だった谷村藩主秋元家国過労・高山傳右衛門の招きで谷村を訪れ、高山家の離れ「桃林軒」に約半年間逗留したと言われています。

現在の桃林軒は、平成11年（1999）、市民有志による「芭蕉翁寓居桃林軒再建委員会」が発足して「桃林軒」の再建に取り組み、平成16年（2004）に竣工したものです。その後都留市に寄贈され、茶道・俳句をはじめとする生涯学習活動やコミュニケーションの場として活用されています。

建物は木造平屋で、和室6畳、水屋4畳からできています。

⑬長安寺

長安寺は浄土宗禅定山長安寺といい、本尊は阿弥陀如来です。

長安寺の境内は都留郡守護・小山田氏の別荘であったと伝えられています。天正 13 年（1585）に感貞生誉上人がこの地に錫杖をとどめた折、当時の領主・鳥居元忠はその人柄に感激して小山田氏の別荘をそのまま寺院とし、自らが開基となり、禅定山（前城山）智光院長安寺と称し、感貞生誉上人を開山として寺を建立しました。



寺はその後たびたび火災で焼失し、現本堂は、享保 10 年（1725）に建立したものを昭和 58 年（1983）に修復完成したものです。

木造銅版葺間口十間、奥行き九間。本堂は、山梨県指定文化財。

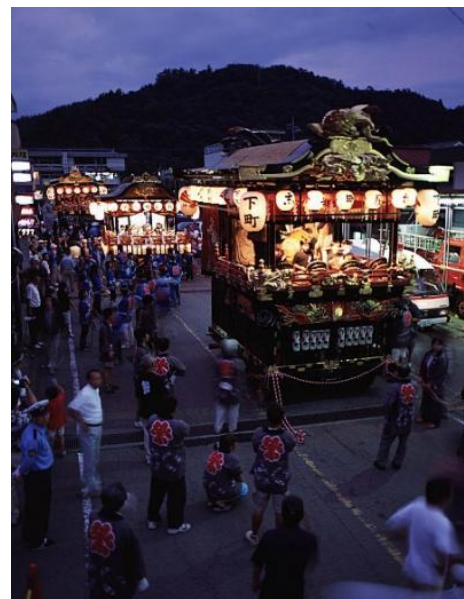
⑮屋台庫

○八朔祭

八朔祭は、四日市場生出神社の例祭で、郡内三大祭の一つとして毎年 9 月 1 日（古くは旧暦 8 月 1 日）に行われてきました。この祭では、神輿の巡業に供奉（ぐぶ）して、付祭として大名行列とともに各町の屋台が繰り出され、その派手な美しさを競い合いました。

○早馬町の屋台

創建年代は定かではありませんが、他町の屋台や飾幕の制作年代等からみて文化年間（1804-17）と推定されます。屋台の様式・構造は、梁間一間、桁行二間造り、屋根は大唐破風平屋根、棟は大棟で鳳凰の懸魚を付しています。軀体は舞台前部と楽屋後部の二間から構成され、台輪の上舞台の部分に擬宝珠（ぎぼし）高欄を巡らしています。



装飾は「牧童牛の背に笛を吹く」（伝・葛飾北斎/落款なし）の後幕が楽屋の三方を囲むように掛けられ、中幕には「裸馬群像」（柳文朝・南柳斎の落款）、舞台の上部に「雲竜」の水引幕、大輪の部分には「百足」の泥幕など装飾を中心とした屋台美を構成しています。

○新町屋台

創建年代は欄干に「文化九年七月」（1812年）の墨書きが施せられています。屋台の様式・構成は、梁間一間、桁行二間造り、破風は大唐破風照り起り屋根、棟は大棟で龍の鬼板を付し、懸魚として飛龍を置いています。躯体は舞台前部と楽屋後部の二間から構成され、舞台には擬宝珠高欄が施されています。装飾は、楽屋三方を囲むように掛けられた後幕「鹿島踊り」、舞台の上部を飾った水引幕「龍」などの装飾によって豪華に彩られています。

○仲町屋台

創建については後部を飾った飾り幕の記録から宝暦期（1751-1763）までさかのぼるとされ、また旧屋台の板に「屋台修復文化十三年三月」（1816）と記されています。屋台の様式・構造は、梁間一間、桁行二間造り、屋根は大唐破風平屋根、棟は大棟で鬼板に竜で、鳳凰の懸魚を付しています。躯体は舞台前部と楽屋後部の二間から構成されています。